専門分野

母性看護学

シ　ラ　バ　ス

科目名	母性看護学総論	単位	1	時間数	30	開講時期	1年次後期	担当者	教員
学習のねらい	人間の性と生殖の意義を理解し、女性とその家族の生涯をとおした看護実践に必要な基礎的能力を養う。								
目的・目標	目的；　母性看護の基盤となる概念を理解することができる。 目標；1．セクシャリティ・リプロダクティブヘルス/ライツ・ヘルスポロモーションについて理解する。 2．母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状を理解する。 3．母性看護の対象を理解する。 4．性と生殖に関する生命倫理的な問題について考えることができる。								
授業計画	1回　(45分×2)　母性とは 2回　(45分×2)　性と生殖の概念と意義 3回　(45分×2)　リプロダクティブヘルス/ライツ 4回　(45分×2)　ヘルスプロモーション 5回　(45分×2)　母子関係と家族発達 6回　(45分×2)　母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 7回　(45分×2)　母性看護の歴史的変遷と現状 8回　(45分×2)　母子保健水準を向上させるための取り組み 9回　(45分×2)　母性看護に関する組織と法律 10回　(45分×2)　母子保健統計からみた動向 11回　(45分×2)　ライフサイクル各期の看護　思春期 12回　(45分×2)　ライフサイクル各期の看護　成熟期 13回　(45分×2)　ライフサイクル各期の看護　更年期・老年期 14回　(45分×2)　母性看護と生命倫理　出生前診断、不妊治療 15回　(45分×2)　筆記試験								
評価方法	試験（90%）、レポート・出席状況（10%）を総合して評価する								
教科書	母性看護学概論 国民衛生の動向 その他　授業で配布する参考資料								
参考文献	基礎看護学総論（ヘルスプロモーション） 成人看護学（成長・発達課題）								
履修要件									

シ　ラ　バ　ス

科目名	母性看護援助論Ⅰ	単位	1	時間数	30	開講時期	2年次前期	担当者	教員 産科医師
学習のねらい	ライフサイクルにおける周産期の位置づけを意識し、その対象理解を学ぶ。								
目的・目標	目的；　妊娠・分娩・産褥・新生児期の対象を理解する 目標；　１．妊娠・分娩・産褥期の生理的変化を理解する ２．新生児の生理的変化を理解する ３．対象の心理的・社会的特徴を理解する ４．生理的変化から逸脱した対象を理解する								
授業計画	1回　(45分×2)　子どもを産み育てること 2回　(45分×2)　妊娠の生理的変化　受精、着床、胎児の成長 3回　(45分×2)　妊娠の生理的変化　母体の変化 4回　(45分×2)　分娩の生理的変化　分娩の３要素、分娩の経過 5回　(45分×2)　産褥の生理的変化　進行性変化と退行性変化 6回　(45分×2)　妊娠・分娩・産褥の心理、社会的特徴① 7回　(45分×2)　妊娠・分娩・産褥の心理、社会的特徴② 8回　(45分×2)　新生児の生理的変化　母体外への適応過程① 9回　(45分×2)　新生児の生理的変化　母体外への適応過程② 10回　(45分×2)　妊娠期の異常① 11回　(45分×2)　妊娠期の異常② 12回　(45分×2)　分娩期の異常 13回　(45分×2)　産褥期の異常 14回　(45分×2)　新生児期の異常 15回　(45分×2)　筆記試験								
評価方法	試験（100%）で評価する								
教科書	母性看護学各論								
参考文献									
履修要件	母性看護学総論を履修していることが望ましい。								

シ　ラ　バ　ス

科目名	母性看護援助論Ⅱ	単位	1	時間数	30	開講時期	2年次前期	担当者	教員 助産師
学習のねらい	対象への看護の方法を学ぶ。 対象がライフサイクルのどの時期に属するのか、その時期の特徴と発達課題を考慮した方法を模索できるようにする。								
目的・目標	目的；　妊娠・分娩・産褥・新生児期、女性特有の健康問題に対する看護の方法を理解する 目標；　１．妊娠期の対象への看護を考えることができる ２．分娩期の看護を理解することができる ３．産褥期の対象への看護を考えることができる ４．新生児の母体外適応過程を促進する方法が理解できる ５．生理的変化から逸脱した対象への看護の方法を考えることができる ６．女性生殖器疾患患者の看護を考えることができる								
授業計画	1回　(45分×2)　正常な経過をたどる妊娠初期の看護（つわりへの看護） 2回　(45分×2)　正常な経過をたどる妊娠中期の看護（体重増加への看護） 3回　(45分×2)　正常な経過をたどる妊娠後期の看護（腰痛への看護） 4回　(45分×2)　妊娠期の異常の看護（切迫早産） 5回　(45分×2)　妊娠期の異常の看護（妊娠高血圧症候群） 6回　(45分×2)　新生児の看護：母体外生活への適応を促進する援助方法① 7回　(45分×2)　新生児の看護：母体外生活への適応を促進する援助方法② 8回　(45分×2)　新生児の異常と看護 9回　(45分×2)　分娩各期の身体的援助・心理的援助・産褥緩和法 10回　(45分×2)　退行性変化・進行性変化への適応促進① 11回　(45分×2)　退行性変化・進行性変化への適応促進② 12回　(45分×2)　退行性変化・進行性変化への適応促進③ 13回　(45分×2)　児との関係確立への援助、育児技術に関する援助 14回　(45分×2)　女性生殖器疾患の看護 15回　(45分×2)　筆記試験								
評価方法	試験（100%）で評価する								
教科書	母性看護学各論 成人看護学　女性生殖器								
参考文献									
履修要件	母性看護学総論を履修していることが望ましい。								

シ　ラ　バ　ス

科目名	母性看護学演習	単位	1	時間数	15	開講時期	2年次後期	担当者	教員
学習のねらい	既習した対象理解や看護の方法を統合して、妊娠・分娩・産褥・新生児期の看護・女性特有の健康問題に対する看護について考えを深める。周産期では、マタニティ診断を用いて健康な対象への看護方法を学ぶ。								
目的・目標	目的；　事例に対する看護過程の展開ができる 目標；　１．妊娠期の事例に対して看護方法を考えることができる ２．分娩期の看護の実施をシュミレーションできる ３．産褥期の事例に対して看護方法を考えることができる ４．新生児の看護の実際をシュミレーションできる ５．女性特有の健康問題に対する看護方法を考えることができる								
授業計画	1回　(45分×2)　マタニティ診断の概要 2回　(45分×2)　妊娠期のマタニティ診断 3回　(45分×2)　産褥期のマタニティ診断 4回　(45分×2)　新生児期のマタニティ診断 5回　(45分×2)　分娩期に看護学生としてできること 6回　(45分×2)　母性看護に特有な看護技術、保健指導の実際 7回　(45分×2)　女性特有の健康問題に対する看護 8回　(45分×2)　実習に向けての準備								
評価方法	提出物（70%）、授業の参加度（30%）から評価する								
教科書	母性看護学各論 マタニティ診断ガイドブック 成人看護学　女性生殖器								
参考文献	ウエルネス看護診断 ウエルネス看護診断にもとづく母性看護過程								
履修要件	基礎看護援助論Ⅷ、母性看護学総論、母性看護援助論Ⅰ・Ⅱを履修していることが望ましい。								